

1年 道徳

主題名	正直な心（いつも正直に）		
中心内容項目	A-2 正直、誠実 どんぐり		
	令和6年	11月 21日	3校時
	児童	1年 1組	29名
	授業者	中村 尚子	

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第1学年及び第2学年「A-2 正直、誠実」とは、「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること」とある。このねらいは第3・4学年の「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」、第5・6学年の「誠実に、明るい心で生活すること」につながっていく。

低学年の児童は、よくないと思いつつも、よくない行動をしてしまったり、言ってしまうことがある。それは、自分の心にうそをついていることになる。自分の心に素直に行動するということがどのようなことかを、心の状態と合わせて考えられるようにしていきたい。

(2) 児童の実態（児童観）

学級全体として「うそをつくことやごまかすことはよくないことだ」という雰囲気があり、正直でありたいと考えている児童が多く見られる。

しかし、実際の様子を見ていると「誰にも知られていなければ大丈夫」「つつい周りにつられてやってしまった」ということがあり、指導していることも多々ある。

誰かに見られているかどうかではなく、自分事として「よくないことだからやめておこう」という考えに至っていないことや「〇〇もやっているから」という衝動にブレーキをかけられないということが課題である。

うそをついてしまったときの後ろめたさを感じ、明るい心で生活するよさを自分事として考えられるような心情を育てたい。

【事前アンケート】 (回答者数 29名)

①うそをつくことは悪いことだと思いますか。	はい 24名 わからない 5名
②今までうそをついてしまったことはありますか。	はい 18名 いいえ 11名
③どんなうそをつきましたか。	・エイプリルフール ・過ちをやっていないと言ってしまった ・やらなければならないことをやっていないのに、やったことにした

(3) 教材への思い（教材観）

どんぐりがたくさん落ちていることを聞いたようすけは、学校の帰りに寄り道をする。後ろめたさはあるが、母親には学校で遊んでいたうそを言い、さらにランドセルからこぼれたどんぐりを「こうじさんがくれた」とうそをつく内容である。

それぞれの場面で、ようすけの気持ちを通して、正直、誠実について自分との関わりで児童が考えることができる。自分との関わりで主人公の気持ちを話し合い、自分自身に対する誠実さについて考え深められる教材である。

2 総合単元ユニットとの関係

「みんな なかよし1年生」という主題のもと、総合単元ユニットを組み指導をしていく。

学校のきまりを守ろうとしたり、友達と仲良くしようとする気持ちが芽生えたりしてきている1年生。しかし、まだ自己中心的な態度をしてしまったり、周りの友達に流されてしまったりすることもある。

みんなが仲良く気持ちよく学校生活を送るために、うそやごまかしのない明るい心で生活できるようにしていきたい。その結果、みんなが笑顔になり仲良くできるような学級経営を目指す。

また、国語の「むかしばなしをよもう」の単元と関連付けてうそをついてばちがあたった登場人物の気持ちを想像し、自分の行動を振り返るようにしていきたい。

3 研究との関わり

(学びの主体意識をもち、道徳的な問題を自分事として捉え、自己の生き方を考えられるようにする指導の工夫)

児童の「？」を大切に、「課題」を設定する ・主題や教材の内容に興味や関心をもたせる
テーマ発問を用いて価値にせまる ・自分の体験と重ね合わせながら、価値にせまるような問い返しをする
児童の思考をつないで、問いを導き出す ・内容項目に関して追究する場面を設定する
共通解を土台にし、納得解を導き出す ・価値についての自分の考えをもたせる

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

主人公の気持ちについて話し合う活動を通して、うそをついたりごまかしたりしないで、明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 ◎研修との関わり
価値への方向付け	1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する ○「しょうじき」っていう言葉を知っているかな。 反対の言葉も知っているかな。 うそをついちゃいけないのに、ついちゃうときってあるよね。 どうしてなのかな。 ≪本時の課題≫ しょうじきについて かんがえよう	◎問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。 ●うそをついてしまう心の弱さを受け止める。 ◎道徳的価値に関わる子どもの「？」を大切に課題を設定する。
	2 教材「どんぐり」を通して、「課題」を追究する ○このお話のようすけさん、よくないところがあったよね。どんなところかな。 ・よりみちをしたところ。 ・おかあさんにうそをついたところ。 ・ランドセルからどんぐりがこぼれて、ごまかしたところ。 ○どうしてようすけは、おかあさんにうそをついたのかな。 ・お母さんに怒られるから。 ・寄り道をしたらだめだから。 ・お母さんに心配をかけたくないから。 ○もっともつむねがどきどきしたのは、どうしてだろう。 ・さらにうそをついちゃった。 ・どんぐりが落ちてしまって、ばれちゃったかな。 ・お母さんに謝りたいけど、怒られるかな。 ・ばれたら怒られる。 【本時の内容項目に関して、児童が個別に思考を深める】 ◎正直に言えなかったようすけになんて声をかけてあげるかな。 ・うそをつく怒られるから、本当のことを言ったらいいよ。 ・お母さんが悲しむから、本当のことを言ったらいいよ。 ・ずっと気になってモヤモヤするから、早く言ったらいいよ。 ・今回は言えなくても、次は正直に言おうね。	●よくないと知らずうそをついてしまうようすけの気持ちを想像しながら聞くように視点を与える。 ●イメージしやすいように、テレビに教材文を映す。 ◎「自分だったら」と自己投影しながら、自分の思いを素直に発表できる雰囲気をつくる。 ◎中心発問を児童のつぶやき等につながら設定する。 ◎教材文の続きを考えたときに、ようすけは本当のことを言ったか、言わなかったのかも考えながら、価値にせまる。
価値の追究・把握	≪児童の思考の方向性≫ (共通解) ・しょうじきになっているほうが、気持ちやすっきりする。	
価値の自覚・意欲化	3 価値について納得解をまとめる ○今日分かったことなどを考えてワークシートに書きましょう。	◎教師が演じる人形劇を見て、共通解を納得解へとつなぐ。

(3) 本時の評価について

主人公の気持ちについて話し合う活動を通して、うそをついたりごまかしたりしないで、明るい心で生活しようとする心情を育てることができたか。